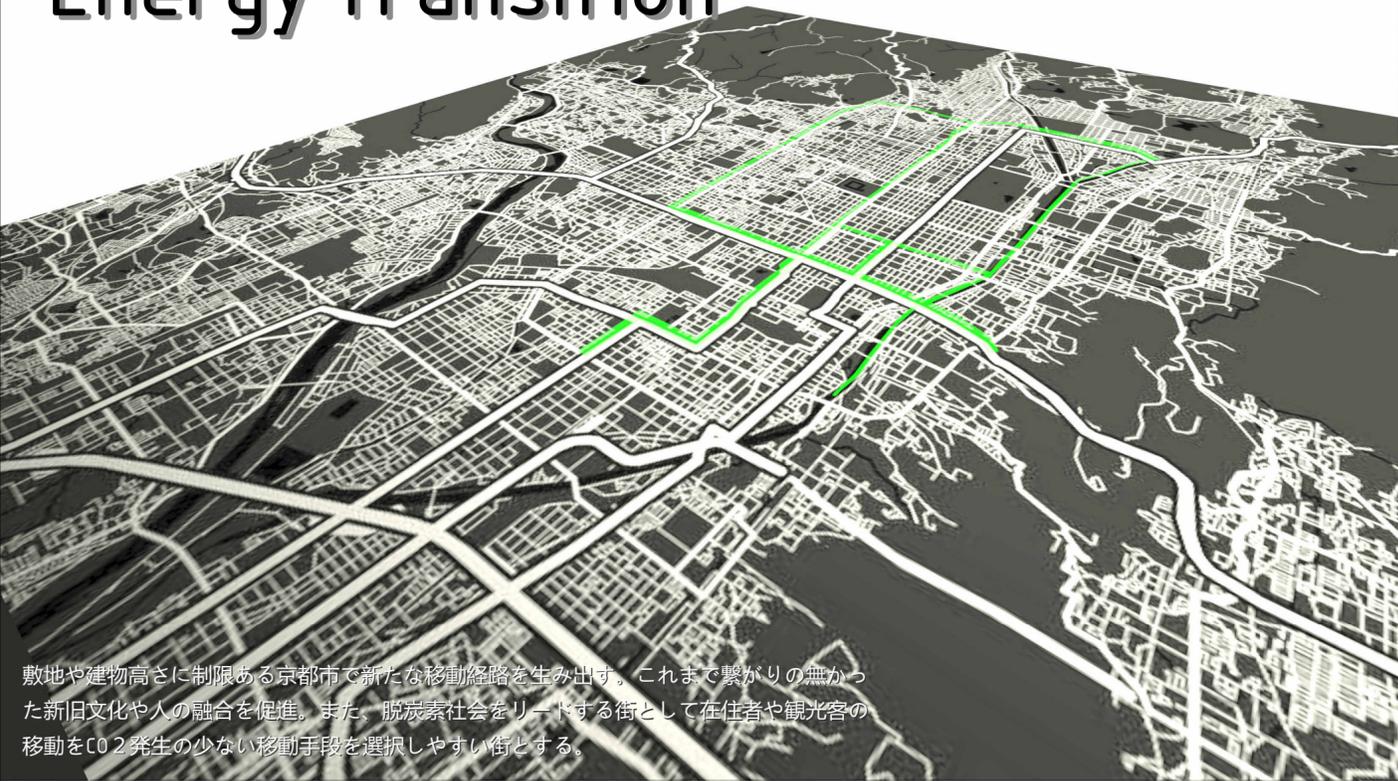
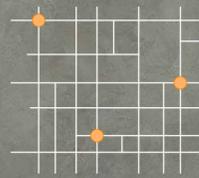


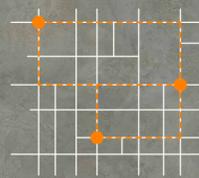
Energy transition



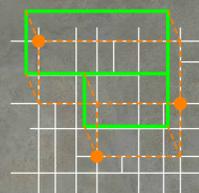
敷地や建物高さに制限ある京都市で新たな移動経路を生み出す。これまで繋がりの無かった新旧文化や人の融合を促進。また、脱炭素社会をリードする街として在住者や観光客の移動をCO2発生量の少ない移動手段を選択しやすい街とする。



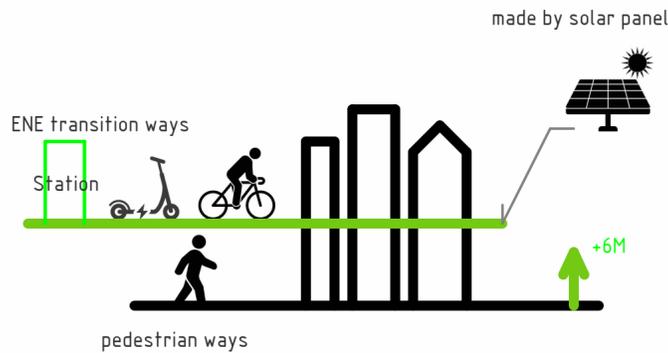
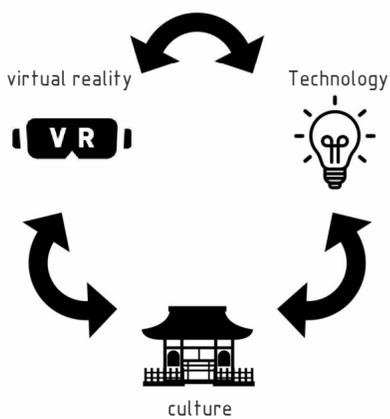
Step 1.
Select the locations



Step 2.
Connect the locations for mixing



Step 3.
Raising ways to circulate energy and people



e-bus



no car

MIXING

伝統文化、職、サブカルチャー、テクノロジーを融合させて新しい京都カルチャーを生み出し新たなKyotoを誕生させる。京都では教育機関や観光地が多い事から、学生や外国人が多い。新たな文化の担い手として既存文化やサブカルチャーの融合を彼らに託す為各主要スポットの行き来をより潤滑にしつつ、VR利用も促進し、物理的な移動のみならず次世代の人や文化交流を目指していく。コンサート会場などでVRを通して海外在住者でも参加できるイベントも開催。

NEW WAYS

歩道や車道の中央分離帯上空約6Mに自転車や電動キックボード専用とした空中経路を設ける。空中経路の舗装は次世代の太陽光パネル敷とし、発電した電気は各拠点に設けた電動キックボード用のステーションで充電を行ったり、夜間の街灯などの電力に利用する。

インバウンドの増加で公共交通機関の渋滞や通勤障害がでている問題に対し、移動手段を複数設ける事で交通移動の混雑を緩和させる。

CARBON NEUTRAL

2050年のカーボンニュートラルに向けて次世代の移動手段へと移行していく。建物の高さを出す事や、遺構やコストの関係から地下が掘りにくいこの街で歩行者や自転車利用者の移動空間を大きくする。古都で最先端の環境モデル都市として、観光のみならず世界に発信していく。空中経路で発電した電気で電気バスの充電を行ったり、空中経路利用者にはEco-pointなるものを作り観光地や他サービス利用できるものとし脱車社会を目指す。



【CO2排出量の大幅な削減】

- ・自転車、電動キックボードのCO2排出量 22g/km
- ・乗用車のCO2排出量 271g/km

【空中道路に敷設した太陽光発電による発電】

- ・電動キックボードの充電
- ・夜間時の照明に使う電力
- ・売電した費用の一部をメンテナンスにあてる



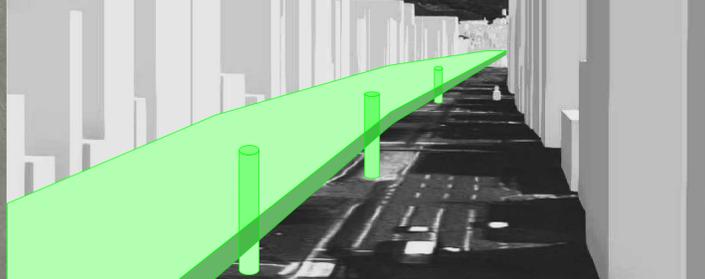
【空中道路利用にKyoto Eco Pointの発足】

- ・観光地での商品売場にPointで割引利用
- ・帰省後もPoint利用できるようにVR事業やネット販売でPoint利用
- ・Eco Pointを利用しないと受けられない職業体験を計画する

【伝統・もてなし】	【文化・芸術】	【VR支援・コンサート会場】
A 織物のまち西陣	H 上賀茂神社	任天堂株式会社
B 友禅染	I 下鴨神社	梅小路公園
C やきものまち五条坂	表・裏千家 (不審庵/今日庵)	京都コンサートホール
D 上七軒	河村能舞台/金剛能舞台	国立京都国際会館
E 花街	京都御所	京都円山公園音楽堂
F 先斗町	J 平安神宮	ロームシアター京都
祇園東	八坂神社	VRIA京都
祇園甲部	南座	京都館PLUS X
宣川町	京都親世会館	
F 島原	池坊 (池坊会館)	
G 錦小路市場	K 西本願寺 (北・南能舞台)	
	藪内家 (燕庵)	

幅員に余裕があり、空中道路を設けやすいと思われる西大路通、堀川通、川端通を縦の基軸とした。また、それらを横に結ぶのが、五条通、北大路通とし、大きな環状線を形成した。Kyotoの次世代の循環軸となる新たな血管を左図緑色の道路と仮定した都市計画的な実験である。

比較南北間は公共交通機関が多く移動しやすいが、東西方向の移動は市バスの利用が不可欠となる。上図3点の主要文化スポットを繋ぐことで、観光促進のみならず新たなビジネスや文化の交流を生み出す。



Connect the ways

Gojo street